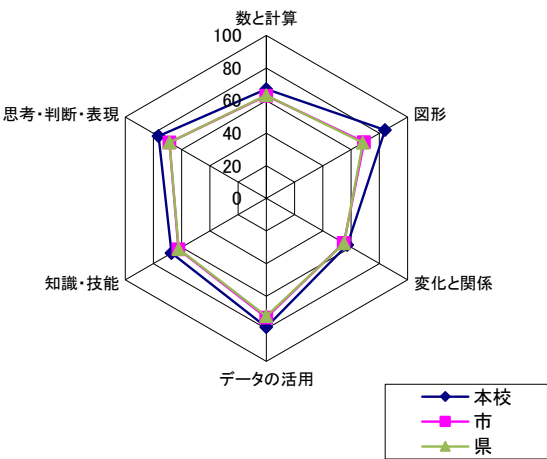


宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.1	63.0	63.3
	図形	84.0	69.2	68.3
	変化と関係	57.3	54.8	55.0
	データの活用	79.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	67.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	76.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は67.1%であり、県の平均を3.8ポイント上回っている。 ○式の意味を正しく理解し、その内容を選ぶ問題や、計算のきまりをもとに間違いを説明する問題では、正答率が高く、県平均より10ポイント以上高い。 ●小数の大きさを「基にする数のいくつか」で比べる問題ではよく理解できていたが、小数×整数や小数÷整数といった計算問題では正答率が低く、無回答も多く見られた。	・今後も、計算の正確さだけでなく、「なぜそう考えるのか」「どうしてその式になるのか」といった思考の言語化に取り組み、考え方を言葉で表現する力や筋道を立てて考える力の育成を重視していく。 ・計算の仕方や意味の理解が不十分であったり、解き方に自信がもてない児童が一定数いたと考えられる。計算の意味と手順を丁寧に確認しながら、具体物や場面設定を活用した学習を行い、計算に自信をもって取り組めるよう、基礎的な技能の定着と反復の機会を充実させていく。
図形	平均正答率は84.0%であり、県の平均を15.7ポイント上回っている。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題や、求める式を正しく選んだりする問題では、高い理解を示し、県平均を10ポイント以上上回っている。	・図形の性質を活用して複雑な角の大きさを論理的に考える力や、自分の考えを言葉や図で表現する力の育成に重点を置き、思考の過程を丁寧にたどる授業を通して、図形への理解をより深めていく。
変化と関係	平均正答率は57.3%であり、県の平均より2.3ポイント高い。 ○割合を使った比較量の求め方を説明する問題では、正答率が県の平均より8.2ポイント高い。 ●表から伴って変わる2つの数量の関係を読み取ったり、式に表したりする問題では、正答率が低く、県の平均を下回っている問題もある。	・割合を使った様々な場面での考え方の活用や、自分の言葉で説明する力を伸ばす指導に努める。 ・表から2つの数量の関係性を見つける力に課題が見られた。数量の変化に着目しながら表や式の意味をじっくり考える活動や、言葉・図・式をつなげて関係を説明する力を養う指導をより一層充実させる。
データの活用	平均正答率は79.0%であり、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ○二次元の表の意味を理解し、空欄に当てはまる人数を答えたり、どのような人数を表しているか説明したりする問題では、正答率が約90%であり、県の平均を大きく上回っている。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、正答率が低く、県平均を大きく下回っている。	・表から情報を的確に読み取り、数量の関係を整理する力を継続して伸ばすとともに、自分の考えを的確に表現する力の育成にも力を入れて指導していく。 ・折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、情報を多角的に捉える力に課題が見られた。複数のデータを比べたり変化を読み取ったりする力を育てるために、グラフを活用した読み取りや説明の活動を通して、データの特徴を論理的に考える力を高めていく。